



わが社の アジア戦略

AI 技術をアセアンで活用

データセクション

ビッグデータの収集や分析を手掛けるデータセクションは、日本国内でのノウハウを活かし、アジア事業に取り組んでいる。2013年6月に現地子会社 DATASECTION VIETNAM を設立したほか、子会社ソリッドインテリジェンスが2016年6月にマレーシア事務所を開設するなど、着実にアジア進出を進めている。

ベトナムでは、現地大手通信会社と提携してのソーシャルメディア分析ツール及びレポート販売を行ってきたが、今年からは人工知能を活用したサービス展開も開始した。例えば、データセクションのAI画像解析技術を活用し、不適切画像フィルタリングサービスなどを手掛けている。これは、ある画像にポルノ、バイオレンス要素が含まれているかどうかをAIが判断し、自動的に選別するもの。このサービスは既に日本で展開しており、世界最高の精度を誇る。ベトナムでは日本と比べてポルノ表現基準が厳しいうえ、ウェブ上のコンテンツが急速に増加しているため、こうしたサービスの需要が強まっているという。

農業融資にも AI 応用の余地

今後についてはインドでの金融事業も視野に入れている。同国では農家に対する融資の貸倒率は実質40%にも上ると言われており、融資リスクが非常に高い。そこでデータセクションは、農作物の画像データや土壌デー

タ、過去の降水量等のマクロデータをAIで分析し、各農家の返済能力のスコア化を行うことでこの問題を解決しようとしている。画像フィルタリングサービスなどと違い、全く新しい試みではあるものの、同社の澤社長は、「これまでシステムインテグレーターが金融業に関わる時は銀行向けに請負型でシステムを提供する形が多かったが、それでは革新的なことは行いにくい」と語り、自社でイニシアティブをとって革新的なサービスを提供することへの意欲を示した。

他にも画像分類技術を応用することで、CTスキャンなどの結果から症状を推測することも可能と語る。そのためには莫大なデータが必要となるが、同社はその莫大なデータを一手に保有する同国の政府系機関とともに、中期的な事業実現に向け具体的に動き出している。

澤社長は、「日本で成功している強みや技術を海外で活用できているIT企業は少ないが、我々はそれをやりたいと思っている」と語った。これは、日本は市場自体は大きいものの既に成熟しており、より成長するためには海外市場に取り組む必要があるためだ。途上国において、AI活用のニーズは急速に拡大しており、そこに大きなビジネスチャンスがあると同社はみている。今後は現在拠点があるベトナムやマレーシアに加え、タイへのサービス展開も検討している。同社長によれば、これらの東南アジアにおける海外事業は数千億円規模の事業になる可能性を有しており、今後もそうした爆発力の期待できる事業を意欲的に模索する方針だ。(16/12/26) (G)



ベトナム法人の従業員ら